

神吉神社

祭神

すがわらのおおかみ	とらけひめのかみ	おとしのかみ	かなやまひのかみ
菅原大神	豊受毘売神	御歳神	金山彦神
おおとしのかみ	ちりふみまじん	いちきしまひめのかみ	
大年神	池鯉鮒明神	市杵島姫神	

由緒

神吉神社は天正年間（一五七三〜一五九一）常楽寺の守護神として大宰府天満宮より勧請した菅原大神と、同寺の境内に鎮座したる豊受毘売神とを明治一七年に、神吉城跡の此の地に合祀遷座したるものである。同年、拝殿を造営、明治三五年、菅原道真公千年祭に合わせ、本殿外覆い及び幣殿を造営したる。

その後、文明年間（一四六七〜一四六八）神吉城築城時に京都愛宕山から勧請したる御歳神、又、神吉城の守護神であった大年神、天正年間に廃寺になつた法福寺に鎮座せし金山彦神、嘉永年間（一八四八〜一八五三）三河の国から分靈した池鯉鮒明神、更に嘉永元年（一八四八）淡路島より勧請したる市杵島姫神、これら神吉村に古より鎮座したる神々を大正五年に合祀、現在、七柱の神々を二祭神とする神社である。

学問・知恵の神、農業の神、開運の神として神吉町内の人々や崇敬者からの信仰が篤

い。

平成二十五年 月吉日 神吉町内会